

ゆうあい報 おだぴたる



社会医療法人

祐愛会織田病院

ODA REGIONAL MEDICAL CENTER

発行者 祐愛会織田病院企画室

責任者 織田 正道

< 院内報 >

新しい時代に臨む 2016年グループ方針

社会医療法人祐愛会 理事長 織田 正道

2016年がスタートし、各地域でポスト2025年を見据えての「地域医療構想」策定が本格化すると共に、「地域包括ケアシステム」構築への取り組みも始まりました。この両者は、車の両輪であり、片方が上手いき、片方が上手いかわないというものではなく、お互いが補完し合い進み、医療と介護の融合が推進されてこそ、理想とされる「Aging in place」が可能となります。この時代の流れに対応し、昨年は、我々の新たな試みであったメディカル・ベースキャンパス（在宅療養支援チーム）も本格的に動き出しました。さらに今年は、医療ニーズの高い高齢者や、重度の要介護者であっても、安心して在宅で生活ができるように「二十四時間対応の定期巡回・随時対応サービス」もスタートし、日中・夜間を通じて看護・介護サービスが可能な体制の構築を進めます。

さて、当法人は、昨年、十一月一日に救急医療の実績が評価され、「特定医療法人」から、より公益性の高い「社会医療法人」へと移行しました。公的病院のない鹿島市において、今後も救急医療の充実に努めるのはもちろんのことですが、前述の如く「地域包括ケアシステム」構築においても、地域と連携し積極的に取り組めます。少子高齢化がさらに進展する時代にあつて、五年後・十年後さらには二十年後も継続して地域を支えていく、保健・医療・介護・福祉を統合した「総合ヘルスケアシステム」実践のモデルとして全国に発信できるように、これからも前進して参りたいと思います。

ただし、今、我々が進めようとしている事業は、スタッフの皆さんの医療・介護のプロとしての使命感と法人に対する理解と信頼が支えになっています。武田信玄の名言「人は城、人は石垣、人は堀」の如く、まさにこの激動の時代に

あつて、共に働く仲間、法人の宝です。今後も、皆さんが、ここで一緒に仕事をしておられたと思つていただけるように、法人の全事業所における共通目標とし、さらなる良質な職場環境整備を進めて参ります。

それでは、2016年のグループ方針を示します。

◎グループ方針

Aging in place

「住み慣れた地域で自分らしく最後までの実現をめざし、急性期医療から在宅まで、保健・予防・医療・介護の各分野が一体的に提供できる総合ヘルスケアシステムの構築を進めます。」

◎保健分野

「いつまでも元気で活躍できるエイジレス社会を築くため、生活習慣病の予防・改善に継続的に取り組みます。」

1. 人間ドック、専門ドック（脳・肺・乳腺ドック）、2次検診に積極的に取り組み受診者の2割アップを図る

2. 行政と協力して特定健診・特定保健指導の受診率アップに努める

3. ヘルスアップ事業（ウォーキング教室）の参加者を増やし継続を図る

4. 糖尿病をはじめとする生活習慣病市民公開講座を、ゆうあい公開セミナーとタイアップし、恒例化（隔月）する

5. 介護分野と連携し、ロコモティブシンドローム対策などの介護予防にも積極的に参加する

◎医療分野

「急性期機能を充実し、効率的で、質の高い医療の提供を目指すと共に、退院後もケアの継続が図れるように地域の医療機関や介護サービスと協力して在宅医療を全面的にバックアップします。」

1. 地域に選ばれる病院づくり

◎急性期機能の充実

◎年間新規入院患者3200名以上の受入れ体制構築

・医師臨床研修協力型から基幹型へ指導体制の構築

・看護師「特定行為」指定研修施設の認定

・救急患者受入れ体制の強化

・かかりつけ医との連携強化（紹介入院患者増）

・退院支援・調整を充実し多職種によるフラット型チーム医療を更に推進

・DCU (Dementia Care Unit) の充実

◎地域包括ケアシステムをバックアップ

・在宅医療支援体制MBC (Medical Base Camp) を確立し、介護分野の24時間型定期巡回・随時対応型サービスと一体化

・医療と介護情報の一元化・共有化

・他業種 (ZENRIN, ALSOK) とのコラボレーションを推進

・医療の質向上を目指して

・TQM (Total Quality Management) 推進

・認知症への理解を深める

◎スタッフに選ばれる職場づくり

①業務の効率化を図り、時間外勤務の短縮、年次有給休暇取得を進める

②ワークライフバランス（多様な勤務形態）の更なる推進

③人事制度の刷新を図る

④グローバルナースの教育・育成

⑤セイフティーマネジメント（医療安全、院内感染防止）の更なる向上

⑥院内のリノベート（外来、連携センター等）、サテライトクリニック開設ワーキングチームスタート

⑦海外研修の充実

⑧Pali Momi Medical Center（ハワイ）研修プログラムの充実

◎介護分野

「いつまでも安心して在宅での暮らし

ができるように、地域包括ケアシステムを全面的にバックアップします。」

1. 地域包括ケアシステムの実現

◎介護老人保健施設における在宅復帰・在宅療養支援機能の充実

◎回転率10%以上、在宅復帰率50%以上、稼働率95%を維持する

・ルームシェアリングを推進

・ショートステイの充実

・病院と連携し、リハビリ機能の充実を図る

◎訪問系サービスは医療と一体化を推進

②訪問系サービスは医療と一体化を推進

・24時間型定期巡回・随時対応型サービス開始

・在宅医療支援体制MBC (Medical Base Camp) と一体化を図る

・他業種 (ZENRIN, ALSOK) とのコラボレーションを進める

③各事業を機能的に連携する

・小規模多機能サテライト開設

・ショートステイの新規開設を進める

・認知症デイサービスの稼働率70%をめざす

・全事業所の統括的連携

④人材採用・育成のための専属部門開設

・介護スタッフの能力向上に向けて、「認知症ケア」の教育研修の強化

・コミュニケーション能力の向上・笑顔と挨拶の徹底

・外国人介護スタッフの教育・育成の強化

2. スタッフに選ばれる職場づくり

①ワークライフバランス（多様な勤務形態）の更なる推進

②子育て支援・介護支援の充実

③業務の効率化を図り、時間外勤務の短縮、年次有給休暇取得を進める

④人事制度の刷新

⑤セイフティーマネジメント（転倒転落防止、院内感染防止）の更なる向上

⑥「ゆうあい社会福祉事業団」の事業独立をさらに推進

『地域包括ケアシステムについて』

ゆうあいビレッジ施設長 千々岩 親幸

2000年に施行された介護保険の最初の改定の年となった2003年に厚生労働省老健局長の私的研究会である高齢者介護研究会から「2015年の高齢者介護—高齢者の介護を支えるケアの確立について」と題する報告書が発表されました。介護保険が開始されて間もない2003年の時点で国はどのような将来計画を検討していたのか2015年が過ぎた今、その内容をあらためて見直してみることがあります。報告書の内容は分かりやすい図が表示されていたのでそれを御参照ください。（図1）この図を見ると現在の介護保険制度の中心となる部分はほとんど提言されており、基本路線には変えない様に思われます。そして注目すべきは「地域包括ケアシステム」という言葉がこの

時点で公式に使われていることです。今でこそ地域包括ケアシステムは国の重要な施策として関係者なら多くの人が知っている言葉ですが、すでに2003年の時点で提言されていたとはあまり知られていないと思います。実際、この後数年間は政府の公式な報告書などでは使われず、2008年に地域包括ケア研究会の発足後から再度使われるようになり2013年に法的に定義がなされたという経緯がありました。地域包括ケアシステムは初出当時、概念的な言葉で具体性に欠けていたようですが、地域包括ケア研究会からの報告書が現在まで4回発表されその内容が徐々に明らかにされてきました。報告書の内容はその理念などの基本は変わらないものの発表される度に修正変更

があり、最新の2014年版の報告書では初回の報告書とは異なる内容も書かれているため、ここでは2014年の「日本医事新報」に日本福祉大学長の二木立先生が発表された論文を参考に最新版の変更点に注目してみたいと思います。まず、基本となる地域包括ケアシステムの理念とそれを構成する5つの要素には変化はありません。構成要素には医療も含まれますが、その内容として2014年以前の報告書には診療所と訪問診療のみに限定されて記載されていた。しかし、最新版では医療の内容として急性期医療

機関と急性期医療への対応の重要性が明記されています。以前の報告書からは「地域包括ケアシステムの医療Ⅱ在宅医療」というイメージしか想定できず「病院」という言葉は逆に遠ざけられていたと思われるのですが、新しい報告書には「病院での急性期医療」が強調されています。報告書では「支援・サビースを受ける場所」として「住まい」「医療機関」「住まい」と医療機関の中間施設」の3つに分類し、何が何でも在宅ケアではなくこの3つの場所を状態に合わせて利用し生活を続けることが必要とされています。次に医療と関連して看取りについても独立の項目として扱われています。これまでも看取りの場所として「住まい」が増加するといわれてきましたが、今回住まいでの看取りだけでなく「死亡直前まで住まいで過ごし、最後の2週間程度を医療機関等で過ごし看取る形態が増加する」と明示されています。この点については現場の感覚からしても現実的と思われる、自宅での看取りが今後急激に増加することは考えにくいと思います。以上のように地域包括ケアシステムは今後も変化（研究会の言葉では「進化」）しながら2025年の完成へ向けて議論がますます深まると思われる。私たちの鹿島の地でこのシステムがどのような形で定着するのか残り10年間の課題となっていますが、重要なことはこのシステムが都市部を対象に想定されており地方都市や田舎を含めた全国一律のモデルはないということです。老健局長の発言にも「地域包括ケアの中心をどのよう

な組織が担い手となり連携体制を築くかは地域によって違ってくる」とあるようです。また、地域包括ケアシステムは介護保険制度改革と捉えられがちですが、前述のように医療との結びつきは不可欠で、最近では「医療・介護」の「連携」から「統合」「一体化」といった文も認めるようになりました。この流れは現在策定中の地域医療構想と地域包括ケアシステムが車の両輪として一体化しながら進められていく方向性を強く予測させるものです。祐愛会も今後10年間で「鹿島モデル」と言われ注目されるようなシステムが構築されるならば、その一翼を担えるように職員一同力を合わせて努力していきたいと思っています。

「地域勉強会」開催

連携センター 神代 修

祐愛会では、地域住民の方々をはじめ、医療機関の先生方や医療従事者、福祉サビースタッフの皆様と身近に必要な情報を共有していくことを目的に、様々な地域勉強会を開催しております。

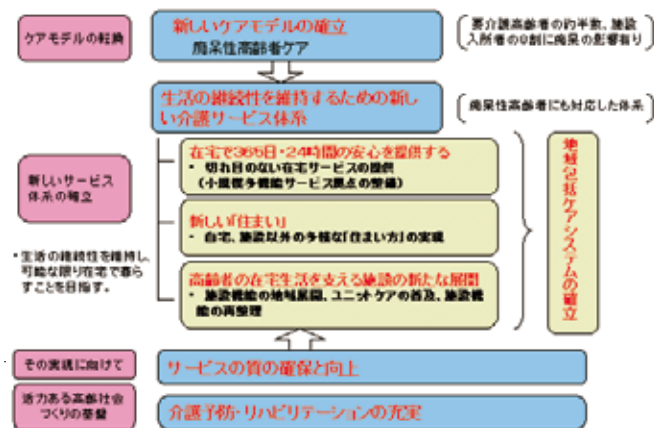
ゆうあい公開セミナーは、2012年より開催、内容はフィッシュ哲学から始まり、医療クラウドや医療イノベーション、先端医療や専門医療についての講演会を実施し現在では第11回目を迎えております。

また、地域褥瘡勉強会や地域嚥下サポート勉強会では、入院期間中の看護やケアを退院後の福祉サビース事業所で継続できることを目的とし、地域福祉サビース事業所に勤務されているスタッフの方々に対象に、定期的に開催してきました。年々高齢化し重度化する利用者様に対応するためには、地域福祉サビース事業所においても褥瘡や嚥下機能は、必要となる知識や技術であり、参加人数も年々増加してきました。地域嚥下サポート勉強会は、当初は当院セミナー室で開催していましたが、その需要から本年度は300人が参加できる研修会場へ変更し開催したところ、277名に参加していただくことができました。その内容も、医師をはじめ多職種協働での講演となり、「嚥下評価と治療」「口腔ケア」「嚥下訓練」



高齢化が進んだ地域社会のなかで、入院患者様の背景には独居や老夫婦世帯の増加や、入院期間の短縮化があり、入院中の看護とケアを退院後も継続する事が必要となっています。今後も、「住み慣れた地域」でいつまでも生活が継続できるように、多職種による支援を入院医療機関から地域福祉サビース事業所へ伝達し実践を継続していただくことが必要となります。今年も、定期的に必要とされる情報を地域勉強会場で発信していきますので、皆様の参加をお待ちしております。地域を支える包括ケアシステムの構築に向けて情報発信と共有を行い「地域でケアを継続」できる体制作りを行ってまいりますので宜しくお願い致します。

高齢者の尊厳を支えるケアの確立



(図1)2003年高齢者介護研究会資料より

第20回ゆうあい研究発表会

QC委員会

緒方 良彦



昨年12月19日に「第20回ゆうあい研究発表会」が嬉野温泉「大正屋」で開催されました。今回のQC発表会は「患者様、利用者様の満足の向上を目指して」というテーマで、病院とゆうあいの各部署・委員会の総勢27部署に取り組んでいただきました。

そのうち優秀賞として、病院より3題、ゆうあいより3題の計6題が選出されました(以下)

- ・心地よい姿勢
- ・(病院)リハビリテーション科
- ・腹部臥位撮影時における撮影補助具の作製(病院)放射線科
- ・ウォーキングMAPの作成
- ・(病院)健康管理センター
- ・Let's園芸

(ゆうあい)小規模多機能

- ・通所リハビリテーションの未来
- ・(ゆうあい)通所リハビリテーション
- ・体操に参加しよう♪
- ・(ゆうあい)機能訓練室

今回のQC発表会を通じての感想として、全体的にどの部署も患者様、利用者様の不便や不安、不満に對し、しっかりと問題点を捉え真摯に對策を練り、そして結果としてきちんと満足や意欲を引き出せていると強く感じました。QCストーリーの水準も高くなってきており、聞きやすく、内容が良く伝わる発表が非常に多かったです。

また、西山副理事長より、平成28年度から義務化される「ストレスチェック制度」について講演していただきました。

このストレスチェックは、日常生活で抱えるストレスではなく、主に労働者が職場で抱える負担やストレスについてのチェックとなります。病院は1月より、ゆうあいは2月から始まります。

今回のQCテーマは「KAIZEN(改善)」ということで、各部署がそれぞれ各部署なりに取り組める「改善」についてQC活動を行っていくこととなります。「改善」という言葉には「悪いところを改めて、良くする」という意味がありますが、「KAIZEN」には現場の人間が知恵を出し、工夫を重ね、変えていくという特徴があります。そしてそれは、一度行ったらそれで終わりではなく、次々と改善を繰り返していく継続性や持続性が重視されます。みなさんの、ふとした気づきや工夫、ムダを無くすといった、ひとつひとつの行動により、改善の種からハッピーの花が咲くことを期待したいと思います。

平成27年 忘年会

QC発表会の後は、毎年恒例の忘年会です。

研究発表会・祐愛会MVP表彰式やEPA候補生の紹介がありました。

そのあと、今年度の新人スタッフ等による余興で大いに盛り上がり、いい年忘れができました。2016年も祐愛会のみんながハッピーになれるよう一丸となって頑張りました。

ゆうあい研究発表会忘年会



▶QC表彰



▶余興



▶EPA紹介

新ホームページ完成

広報ブランド管理委員会 織田 良正

平成27年10月1日より祐愛会ホームページが新しくなりました。広報ブランド管理委員会を中心に本格的に取り組み始めて約半年の期間を要しましたが、その間検討を重ね素敵なホームページが完成したのではないかと自負しております。

ところで皆さんホームページには何を求めますか？見た目を重視する人もいれば、使いやすさを重視する人もいるでしょう。求めるものは人それぞれだと思いますが、ICTの進歩は早すぎて、新しいものや便利なものを求めるだけではすぐにページは時代遅れになってしまします。祐愛会は今でも「地域に根ざした医療・介護複合体」です。「旅館やホテル」でもなければ、「IT企業」でもありません。今回ホームページのアップデートに当たって、「地域に根ざした医療・介護複合体」であることを大前提として、2つの点に力を入れました。1つめは「祐愛会の良さを伝えること、そして、2つめは「様々なデバイスからも見やすいこと」です。

1つめの「祐愛会の良さを伝える」ことに関してですが、鹿島から祐愛会の取り組み、良さを全国に発信するために、現場の雰囲気や伝わるように写真を多く使用しました。ハードよりもソフトを重視し、合計1万枚近くの写真を撮影し、また各紹介

ページはそれぞれの部署で自由にかつ責任を持って作成してもらいました。例えば、にわか劇団ゆうあい一座はYou Tubeで閲覧可能となりました。早速、海外（オーストラリア）からも絶賛のコメントが寄せられており、祐愛会が日本に留まらず世界に発信されているのを実感します。

実際にアクセス分析では、ホームページ全体の10%以上が海外からのアクセス（日本88%、海外12%）という驚くべき結果が出ています。（ちなみにアクセス数は1位日本、2位アメリカ、3位ロシアの順です。その他、ブラジルや中国、ヨーロッパからもアクセスがあります。）

2つめは「様々なデバイスから見やすい」ことに関してですが、ここ数年でモバイル端末（スマートフォンやタブレット）の使用率が非常に高くなっています。ホームページをより多くの方に使用して頂くためには、デバイスを問わず、見やすい、分かりやすい、使用しやすい画面が必須と考え、アイコンを大きく、そして少なくしています。実際にアクセス分析ではデスクトップから55%、モバイル端末から45%とスマートフォンやタブレットからのアクセスはデスクトップとほぼ同等ということが分かりました。

今後は採用情報ページの強化を予定しており、さらなるホームページの充実を計ります。アクセスの分

析をしつかり行い、より一層パワーアップしていきたいと思っていますが、職員の皆様からアイデアがありましたらぜひ教えて下さい。お待ちしております。

それでは最後に各部署から新しいホームページのおすすめポイントを紹介したいと思います。

神代課長 「ゆうあい一座・祐愛会クラブ活動などアフターファイブもさらに盛り上げて行きましょう！」

宮崎課長 「採用ページはさらに更
新予定です。乞うご期待！」

岩屋看護師 「活気のある職場の魅力が伝わるページになっていますので、ぜひご覧ください♡」

松枝事務 「新着情報を更新しているのは実は僕です。」

中島フロアマネージャー 「どう
やって見るのでしょうか？」



精密聴力検査室増設

耳鼻咽喉科 渡辺 智

耳鼻咽喉科は昨年春に九州大学病院耳鼻咽喉科 前教授の小宗静男先生をお迎えし、小宗神経耳科学研究所を新設しました。これに伴い、従来の聴力検査室に加えて精密聴力検査室を増設しました。

精密聴力検査室は防音はもちろん、全体を完全シールド化し、聴性脳幹反応(ABR)を含めた誘発聴性反応が正確に行えるようになりました。

次に補聴器適合検査のための語音聴力検査が行えるようにいたしました。すでに多くの患者様の補聴器のフィッティング、機種選択などの指導を行い喜んでいただいています。さらにめまいの患者様に対してVNG(ニスタモリ)を導入、精密な前庭機能検査が可能となりました。また、顔面神経麻痺の予後判定のためのENG検査も可能となりました。

着任以来、鼓室形成術やアブミ骨手術などの症例は飛躍的に増加し、すばらしい治療成績をあげております。今年からは高度難聴者に対する人工内耳手術を開始致します。

今回のリニューアルで、患者様により一層質の高い医療が提供できるようになったと確信していますので、「聞こえ」「めまい」でお困りの方は耳鼻科へ御相談下さい。



新任 Dr 紹介



内科
山口 りか

【出身医局】
佐賀大学医学部総合診療部
【専門領域】
総合診療

平成27年10月より織田病院に勤務しています。総合内科の山口りかです。私は佐賀県神埼市神埼町の出身で、大学は佐賀大学医学部を卒業、初期研修は佐賀大学医学部附属病院で行い、以後は佐賀県内で医師として働いているという、生粋の佐賀県民です。初期研修以降は、消化器や神経、循環器、呼吸器、糖尿病などの内科を数年間ローテーションした後に、佐賀大学医学部 総合診療部に入局し、今回縁あって鹿島で勤務することになりました。鹿島での勤務は初めてで地理や周辺施設・病院のことなど戸惑うことも多いです。ただ、織田病院で働く中で、スタッフ一丸となって、地域を支え、病院を盛り上げよう、作り上げていこうとするこの気風に触れて、とても興味深く、そして頼もしく感じています。私自身、医師としてはもう8年目になりますが、周囲のスタッフに支えられ、ようやく診療を頑張れているところです。まだまだ至らない面もあるかと思いますが、病院を盛り上げる一員として日々精進していく所存です。今後ともよろしくお願い致します。

感染管理認定看護師 取得にあたって



江口 美美子

私は、平成27年7月に、感染管理認定看護師の資格

を取得しました。

認定看護師とは、「ある特定の看護分野において熟練した技術と知識を有し、高い水準の看護実践ができる」と、日本看護協会が認定した資格です。

現在、感染管理認定看護師は全国で2053名、佐賀県では15名が資格を取得し、活動しています。

感染管理認定看護師の役割は、専門的な知識と技術を用いて、患者・来訪者・医療従事者・施設・環境を対象に、感染に対するリスクを最小限に抑えるための実践・指導・相談を通じて、組織横断的に感染防止活動を行うことです。

今後の活動として、まずはこれからの寒い時期に流行するインフルエンザや感染性腸炎の院内感染予防・対策・指導を行っていきます。

院内感染防止対策としては、耐性菌・手指衛生・環境に重点を置き、感染防止委員会の活動を充実させ、組織全体の感染防止に対する意識向上と対策の定着に向けて頑張ります。気軽にお声掛けして頂くと共に、ご協力よろしく申し上げます。

ようこそ祐愛会へ



12月9日、インドネシア看護師候補者8期生 エカさん、ヘレナさん、介護福祉士候補者8期生 ジェリタさん、スシさん、モリさん、ブトゥリさんが祐愛会に着任しました。彼女たち6名はインドネシアで6ヶ月、大阪で6ヶ月日本語を勉強していますが、まだまだ充分ではありません。日本語や日本の習慣を覚えるのに時間はかかりますがよろしくご指導お願いします。皆様に6人をインタビュールで紹介します。

Q1 病院、施設の印象はいかがですか？

ヘレナ…鹿島に来て、寒いと思いました。病院は大きいなと思いました。病棟のスタッフはやさしいと思いました。

エカ…病院はきれいだし、みなさん優しく話してくれて安心しました。病棟のスタッフに優しく教えてもらいました。

モリ…施設はきれいと思います。

ブトゥリ…仕事は難しいですが、施設の感じは良いと思います。

ジェリタ…職員はやさしい。雰囲気も良い。

スシ…施設の感じは良いと思います。

Q2 好きな日本食はありますか？

ヘレナ…ラーメン

エカ…ラーメン

モリ…そば

ブトゥリ…てんぷら、ラーメン

ジェリタ…ラーメン、そば

スシ…海老のお寿司、ラーメン

Q3 趣味は何ですか？

ヘレナ…旅行

エカ…映画を見ること

モリ…映画を見ること

ブトゥリ…旅行

ジェリタ…料理

スシ…スイミング

Q4 日本でやってみたいこと、行ってみたいところは？

ヘレナ…富士山に登りたい。

エカ…ハチコウ像を見たい。渋谷へ行きたい。

モリ…富士山

ブトゥリ…USJ

ジェリタ…広島・長崎へ行きたい

スシ…北海道の雪祭り

Q5 好きな日本のタレントはいますか？

ヘレナ…なし

エカ…ゆいよしか、浜崎あゆみ

モリ…まだいません

ブトゥリ…まだ分かりません

ジェリタ…古川雄輝（俳優）

スシ…Kiroro

Q6 日本語で好きな言葉はありますか？

ヘレナ…「よろしくお願いします」

エカ…「思慕（エカ）私（私）の名前を漢字にしたら幸せの歌という意味

モリ…めぐみ

ブトゥリ…大丈夫

ジェリタ…お世話になります、めぐみ

スシ…親切



スシさん



ジェリタさん



ブトゥリさん



モリさん



エカさん



ヘレナさん

【病院】

【ゆうあい】

新成人

- ①成人を迎えた感想は？
②成人してやってみたいことは？
③BORDER

山口美咲さん

(病院：C.F.)

- ①あまり実感はありませんが、少し大人になった気がします。
②お酒をたくさん飲んだり旅行をしたり、今しかできないことをしたいです。
③まずは、今度の准看の資格試験に合格し、これまで以上に勉強と仕事をがんばっていききたいと思います。

池上真由さん

(病院：4F)

- ①今はまだ成人を迎えたという実感が薄いので、これから社会人として生活をしていく中で多くの事を学んでいきたいと思う。
②友達と一緒にお酒を飲みたいです。
③まだまだ未熟で、仕事でも色々迷惑をかけると思いますが、社会人としての自覚を持ち、これから頑張っていきたいと思います。

黒木彩由美さん

(ゆづあい・栄養科)

- ①20歳になっても、まだ実感がありません。自立出来るように自分自身の行動や発言に責任を持ち、しっかりとした社会人になりたいです。
②仕事面でもプライベートの面でも今まで出来なかった事や、20歳になったからこそできる、いろんな事に挑戦していきたいです。
③私は負けず嫌いです。仕事で失敗して辛い時もあるけど、努力することが自分のいい所だと思うので、その長所を生かし、これからも精進していきたいと思います。

ハワイ研修を終えて

医事課 松枝 幸輝

初海外・初ハワイ。なんでも初めて尽くしのハワイ研修がスタートしました。慣れない飛行機であり眠れませんでした。慣れ、無事にハワイへ到着。今回のハワイは、少し湿度が高く蒸し暑いとのことでした。そのまま、観光でタンタラスの丘やカメハメハ大王像など見学しました。ホテルに着いて、きれいなオーシャンビューに気持ちが高まりました。



2日目は、研修日。日米医療の違いについて学びました。そのあと、病院と介護施設に分かれて視察に行きました。アメリカでは、日本で始まる看護師の特定行為に似た制度がすでに導入されており驚きました。

3日目から、オプションツアーになり、初日はマリンスポーツでした。青空の下、初めての運転で恐る恐る乗ったジェットスキーやシュノーケリングを満喫しました。

4日目は、ダイヤモンドヘッド登山。早朝はきつかったけど、絶景でした。登山証明書もいただき、たいへん記念になりました。この日の夜は、ホテルのハロウィンパーティに参加しました。大音量の音楽と参加者の仮装がよくできていて、大盛り上がりでした。

楽しい日はあっという間でしたが、とても思い出に残るハワイ研修になりました。別のグループは、3日目は、オアフ島観光に参加し、シュノーケルに最適なハナウマ湾や、ハロナ潮吹き岩、日立の宣伝で有名な木があるモアナ・ガーデンなどの名所を観光。4日目は潜水艦に乗りハワイの海を満喫。日常から開放され、すごく楽しい良い経験ができたとのことでした。

◎施設見学

■ワヒアワ総合病院

救急と短期入院の施設で、併設して長期入所施設がありました。救急は、最近改装されて、トリアールルームや用途別に分けられた救急カートなど充実した設備がありました。入院は短期で、日帰り手術が多いとのことでした。また、長期入所施設は、月600ドルで、普通の10分の1の料金とのことでした。



■ハワイカイ・リタイアメント

■コミュニティ

施設見学では、「ハワイカイ・リタイアメントコミュニティ」という施設を見学しました。ホテルのような設備であり、ロビーにはコンシェルジュが24時間体制で常駐されていました。水の音が癒しになるとの考えで、施設のいろいろなところに水の音が聞こえたり目に触れることができるような工夫がなされていました。



学会（研究会）発表

【学会（研究会）発表】

◎医学関係

- ・第35回総合診療ケースカンファレンス（5月20日）ホテルマリタール創世 相原秀俊「甲状腺クリーゼの1例」
- ・外科フォーラム（7月11日）マリトピア佐賀 佐藤建 大高和真 山口友範 伊山明宏「当院における虫垂炎 ヘルニア手術の現状」
- ・第28回日本疼痛漢方研究会学術集会（7月11日）東京コンファレンスセンター・品川 中平圭「原因不明の外陰部痛に対する漢方薬の使用経験」
- ・第75回日本呼吸器学会九州支部秋季学術講演会（10月3日） 徳島圭宜 中原快明「ニューモシスチス肺炎を繰り返したHTLV-1キャリアの1例」
- ・第36回総合診療ケースカンファレンス（11月18日）ホテルマリタール創世 徳島圭宜「ニューモシスチス肺炎を繰り返したHTLV-1キャリアの1例」

看護・介護・福祉etc

- ・日本医療マネジメント学会第13回佐賀支部学術集会（2月28日）佐賀市アバンセ 田中安紀子「当院における多職種協働・退院支援システムの実績～フラット型在宅復帰支援チーム～」
- 加藤喜子 重松かおり「リエゾンナースによる退院支援10年間の成果」
- 正保瞳 山下由香里 辻田幸子 吉田一暁「褥創勉強会開催による地域医療連携の推進について～当院褥瘡委員会での取り組み～」
- 川下勝利 土岐幸子 樋渡亮子 川崎淳子 小野原彩夏 江口富士子 渡辺智「地域に向けた嚥下サポート委員会の取り組み」
- ・第17回日本医療マネジメント学会学術総会（6月12日）グランキューブ大阪 河本健太郎 正保瞳 原崎真由美 井上出 織田良正 多胡雅毅「実践につながる院内BLS研修への見直し」
- ・第17回日本医療マネジメント学会学術総会（6月13日）グランキューブ大阪 原和行「多職種協働フラット型チーム退院支援の実践とその効果」
- ・第65回日本病院学会（6月18日）軽井沢プリンスホテルウエスト 河本貴子 重松かおり「リエゾンナースによる退院支援の取り組み」
- ・第37回佐賀救急医学会（9月5日）嬉野市公会堂 真木恭子 小池知世 正保瞳 原崎真由美 江口富士子 織田良正 多胡雅毅「院内急変に対する当院の取り組み～ハリーコール訓練の実施～」
- ・第57回全日病学会in北海道（9月12・13日）ロイトン札幌 馬場智大、鬼村妃世「理学療法士が主導する地域に向けての健康支援」
- 副島和樹「TACE（肝動脈化学塞栓術）に対する診療支援3D画像の作成」
- 永石由香、辻田幸子「DCU開設 第1報～看護師の気持ちの変化～」
- 白濱洋子 小池知世 川島裕子 古川尚子 多胡雅毅 江口富士子「再採血減少への取り組み～ケアの有効性の検証～」
- ・第17回日本認知症グループホーム大会（10月11・12日）アスティとくしま 内野圭見「家族交流会のあり方について考える～家族と共に支えるグループホームをめざして～」
- ・第17回日本認知症グループホーム大会（10月11・12日）アスティとくしま 市丸徳美「認知症高齢者ケア日・豪シンポジウム」
- ・日本医療マネジメント学会第14回九州・山口連合大会（11月20日）人吉市カルチャーパレス

- 田中寛子 久本由香 辻田幸子「急性期内科病棟における退院支援の取り組みと今後の課題」
- ・日本医療マネジメント学会 第14回九州・山口連合大会 in人吉（11月20・21日）人吉市カルチャーパレス・人吉スポーツパレス 宮崎圭介「薬剤師による退院支援～薬剤アセスメントシートの作成と活用」

【講演】

医学関係

- ・唐津漢方研究会（6月16日）唐津シーサイドホテル 中平圭「痛みの漢方治療」
- ・第9回ゆうあい公開セミナー（8月20日）鹿島市生涯学習センター（エイブル）中平圭「『ここからからだ』に優しい痛みの漢方治療」
- ・第2回 嚥下サポート地域学習会（9月30日）エイブル 脇岡貴裕「嚥下障害の評価と治療」

看護・介護・福祉etc

- ・佐賀県看護協会研修会（12月6日） 田中寛子「在宅復帰を目指す退院支援」

【講義】

医学関係

- ・佐賀県立総合看護学院（6月23日） 西山雅則「地域医療と高齢者保健指導」
- ・武雄看護学校講義（7月9・16・24日） 中原快明「呼吸器 検査と治療・処置」
- ・鹿島看護高等専修学校講義（8月26日、9月2・9・16・30日、10月7日） 廣津辰美「人体のしくみと働き・疾病の成り立ち脳神経系」
- ・七浦小学校講話（8月27日） 中原快明「アナフィラキシーショックについて」

看護・介護・福祉etc

- ・佐賀大学医学部看護学科講義（1月9日） 市丸徳美「介護老人保健施設における看護」
- ・有島病院研修会（1月16日） 市丸徳美「認知症ケア」
- ・佐賀コロニー職員研修会（1月29日） 市丸徳美「知的障害者福祉施設における認知症介護の実践を学ぶ」
- ・佐賀県委託事業研修会（1月31日、12月5日） 市丸徳美「病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修」
- ・織田病院看護部研修会（2月19日） 市丸徳美「認知症患者の看護」
- ・認知症サポーター養成講座：南川地区住民の方（3月20日） 光武耕治 石井大輔「認知症を理解し地域で支えよう!!」
- ・認知症サポーター養成講座：大宮道・小宮道地区住民の方（4月3日） 光武耕治 石井大輔「認知症を理解し地域で支えよう!!」
- ・佐賀県看護協会新人看護職員多施設合同研修会（5月13日） 市丸徳美「フォローアップ研修1 認知症看護の実践」
- ・佐賀県看護協会研修会（5月21日） 市丸徳美「認知症患者の看護」
- ・鹿島市立西部中学校・福祉教育（6月4日） 山口真二、綾香哲子、内田智弘「高齢者理解について」
- ・嬉野医療センター看護部研修会（6月9日） 市丸徳美「高齢者看護、認知症看護の基本」
- ・鹿島看護学校講義（6月17・24日、7月1・8・15・22・29日） 本村幹親「リハビリテーション概論」
- ・介護労働安定センター「平成27年度介護労働講習」（6月12・19日、7月28・31日、9月28日） 石井大輔「実践講習：生活支援①・②・④・

⑤・⑥

- ・認知症サポーター養成講座：本城老人クラブ（6月15日） 光武耕治 石井大輔「認知症を理解し地域で支えよう!!」
- ・介護予防教室 行成公民館：行成地区老人会（6月22日） 石井大輔 光武耕治「認知症の理解と認知症予防について」
- ・介護労働安定センター「短期専門コース」（7月14日） 石井大輔「介護記録の書き方」
- ・犬塚病院看護部研修会（7月30日） 市丸徳美「認知症の理解と関わり方」
- ・第2回鹿島市認知症徘徊声かけ訓練（8月23日） 光武耕治 石井大輔「認知症サポーターフォローアップ研修」
- ・認知症サポーター養成講座：鹿島警察署職員（8月24日） 光武耕治 石井大輔「認知症を理解し地域で支えよう!!」
- ・嬉野医療センター附属看護学校講義（9月10・18・25日、10月13日） 市丸徳美「老年看護学方法論Ⅱ：高齢者を取り巻く保健医療施設、高齢者の理解、認知症高齢者の看護」
- ・佐賀県介護老人保健施設支援相談員部会研修会講演（9月11日）佐賀市民図書館 山口真二、内田智弘「在宅復帰強化型老健・課題と展望について」
- ・嬉野医療センター附属看護学校講義（9月30日、10月7・14・21・28日、11月4・11） 小森ひろ子「在宅看護方法論」
- ・佐賀大学大学院看護学専攻講義（10月20日） 市丸徳美「老年看護特論：認知症看護、パーソン・センタード・ケア」
- ・介護の日記念講演会（11月6日） 市丸徳美「認知症の人と家族への支援～今、私たちにできること」
- ・介護予防教室 鳥越公民館：谷所地区老人会（11月18日） 石井大輔 光武耕治「認知症の理解と認知症予防について」
- ・日本C P A T研究会研修会（12月12日） 市丸徳美「日本語版C P A Tを用いた認知症ケア事例の紹介」
- ・ケアサポート講習：ひらまつ病院（12月16日） 石井大輔「介護記録の書き方」

【論文】

医学関係

- ・西山雅則、織田正道：病院として在宅看取りを支える。病院74（4）：272-276,2015
- ・相原秀俊、坂田泰志、出勝、米満伸久、山下秀一：自然消失した十二指腸濾胞性リンパ腫の1例。内科116（4）712-715,2015.
- ・痛みと漢方 Vol.25、90-93、2015 「高齢者の30年来の頭痛に対し、三黄瀉心湯が走行した1症例」 中平圭

看護・介護・福祉etc

- ・病院羅針盤 第6巻 第72号 2015年12月15日発行 病院経営の柱となるベッドコントロール 多職種協働によるフラット型チームによる退院支援の実践とその効果 ～在院日数短縮、在宅復帰率アップに貢献～ 原和行
- ・日総研 看護人材育成2015.12・2016.1月号P19～25 円滑な退院のための退院支援計画、院内連携、退院支援教育 ○田中寛子 加藤喜子 永池かおり 久本由香 辻田幸子

県民体育大会に出場して

総務課 下村嘉憲

昨年10月18日に第67回佐賀県民体育大会があり、当法人から鹿島市代表として4名の方が参加されました。剣道一般女子団体優勝（ケアコートゆうあい事務部 野中華那）、40歳以上3000m3位入賞（総務課 下村嘉憲）、同10位（循環器科 谷口賢一郎先生）、走り高跳び一般女子4位入賞（言語聴覚士 石動丸拓実）など好成績を修めることができました。

昨年より織田理事長が鹿島市体育協会長に就任、陸上部には新監督として井上部長をお迎えし本格始動したのを皮切りに、野球、テニス、バレー、山岳登山、おしくら饅頭、釣？など多くの部活が充実した活動を展開しています。部活を通して心の交流が生まれ、仕事における多職種協働フラット型チーム医療ともあいまって部署間の垣根がなくなり、効率的なスムーズな連携に繋がっているようです。また部活には企業の宣伝効果、職場や地域を元気にする力もあります。今後は活動範囲を院外に広げ、地域で活躍できる人がさらに増えることを期待しています。鹿島体育協会主催の2月の祐徳ロードレースでは選手、ボランティアとしてたくさんの方の参加をお待ちしています。余談になりますが、ゲストはミス・ユニバースの吉松育美さん（鳥栖市出身）や箱根ランナーです。



剣道一般女子
優勝 鹿島市 野中 華那（ケアコートゆうあい事務部）他2名

青山学院大学の神野君に会えるかも!?です。
※近日中に織田理事長が青山学院大学（渡辺監督）へ出向かれる予定です。
さて当法人では「前向き」という言葉が浸透しています。たとえ困難な状況や高い壁にぶつかったとしても「前向き」に信念をもって取り組みれば必ず道は開けるというものです。これは仕事やスポーツに限らず、すべてに共通することだと思えます。日々直面する困難や壁、或いはこういう人になりたいといった理想

（夢）を自分の中で消化し「前向き」に捉えることができれば現実的な目標となり、目標となれば達成するための構想が浮かんできます。信念を持って継続すれば、自信となり確信となつて、いつしか必ず目標（夢）に辿りつけると思えます。
昨年の県内一周駅伝や県体ではたくさんの方の応援をいただき本当にありがとうございました。また幼少の頃がとうございました。また幼少の頃より超がつくほどネガティブな私ですが、なんとか前向きに頑張ってきたのは、恵まれた職場環境と多くの力添えがあったからだと思えます。この

場を借りて心より感謝申し上げます。今後もすべての環境は自分を成長させる糧であることを肝に銘じ「弱い自分」と闘いながら、さらに上を目指して「前向き」に歩み続けたいと思っています。最後に、毎日が職場と家の往復だけで・何か充足感に欠けるという方おられませんか？是非仕事プラスもうひとつ「自分の中にある秘めた可能性」を信じて何かに挑戦してみませんか。
地域での活動の際には病院の宣伝も願います。

※Tシャツ有（希望者は総務まで）

表彰

平成27年10月28日、当グループ介護施設の事務北川玲子が鹿島市内の交通量が多い場所道に迷っていた高齢者を保護し鹿島警察署より感謝状をいただきました。



編集後記

新年明けましておめでとうございます。2015年は皆様にとつてどのような年でしたか？

私にとつての2015年は、仕事の面では課題がたくさん見つかりましたが、自分の成長も感じられる充実した1年でした。また私の生活の一部になっているサガン鳥栖が加盟するJ1リーグでは昨年より「2ステージ制」が導入されました。2ステージ制に対しては賛否両論ありますが、時代の変化とともに考え方や生き方も変化しているからこそ、成長するためには新しいことに挑戦することが大切だと思います。

当院でも昨年より「退院支援から続く在宅生活支援」を目的としてメデイカルベースキャンプが始動しています。高齢化が進み、核家族が増え続ける社会の中で、病院内だけでは送ることは困難な場合が多く、退院支援だけでなく退院後の生活支援が必要不可欠となっていることを日々感じています。

職員ひとり1人が成長していけるように切磋琢磨し、2016年もみんなで頑張っていきたいと思います。

（4階病棟 看護師 岩屋直子）